

Benesse®

介護について考える

(株)ベネッセスタイルケア主催
「第二回東京介護相談会」より

ベネッセでは、お一人おひとりのご事情で異なる介護の問題解決のために、少しでもお役に立ちたいという思いから、今年7月、都内9会場にて「第一回東京介護相談会」を開催いたしました。その中のひとつ、渋谷会場ではエッセイストの安藤和津さんに、ご自身の介護体験についてお話しいただいたほか、ケアコンサルタントの川上由里子さんに、介護が必要になったときの情報と知識についてわかりやすく解説していただきました。ここにその内容の一部をご紹介します。

安藤和津さんが、ご家族の介護体験を通して学んだこと

「第一回東京介護相談会」渋谷会場の第一部として、安藤和津さんに『明日を素敵に生きるには、母の介護体験を通じて』と題してお話をいただきました。安藤さんご自身が実感されたのは「介護は突然やってくる」ということ。ある日、安藤さんのお母様の様子がこれほどと違い、以前からは想像ができたほどヒステリックな言動が増えたそう。当時はその原因が脳腫瘍であったこともわからず、毎日戸惑われていたようです。

ご自宅での介護が必要になった中、『いつまで母の介護に悪戦苦闘するのだろう』と悩まれるときもあつたようですが、ある日、『介護は大変だけど、それは母が生きているからこそできる。生きていてくれるだけありがたい』と発想の転換ができ、さまざまあった介護の暗闇に出口が見えたと安藤さんはおっしゃいます。ご家族以外の方とはなかなか馴染めないお母様の性格から、安藤さんは施設の利用を諦め、ご自宅での介護を選びました。その経験を通じて、『家族だけでは絶対に乗り越えられない壁がある』と感じられ、ご自身の老後は娘様に自宅介護してもらおうではなく、介護施設で

専門の方にケアをお願いしたいそうです。「人生の最後まで前向きに1日を通して、それが素敵な明日を迎える一番のコツのような気がします」と安藤さん。心の喜びをご家族からもらって、身体ケアは他の人に任せる。そして、仲間のたくさんいる所で老後を楽しみ過ごす。それが人生における最後の選択であるとおっしゃっていました。

いざ介護が必要になったとき迷わず、困らないために

続いて第二部では、『もしも介護が必要になったらら、お金のこと・住まいのこと』と題し、介護相談の経験豊富な川上由里子さんにお話をいただきました。家族の介護が必要になった際、どのように介護をするのか、仕事をどうしようかとその場で悩むよりも、まず、『正しい情報と知識を得ること』事前にライフプランを考慮しておくことが大切だと、川上さんはおっしゃいます。介護が必要になると、施設への入居か、在宅介護の選択を迫られる場面に多くの方が直面します。終の棲家としての生活の場には、住まい方やライフスタイル、体調に合わせて、ご本人のニーズは何か、なぜホームを探すのかをしっかりと



川上由里子さん(ケアコンサルタント)

かわかみゆりこ/看護師として大学病院でケアに携わる。三井不動産 ケアデザインプラザの介護支援事業の立ち上げに参画。現在は、高齢期の暮らしに関する相談、講演などで活躍中。

と整理する必要があります」と川上さん。いざというときに間違った選択をしないためにも、福祉・保健の専門家が在籍している地域包括支援センター等に事前に相談にいき、情報収集することもお勧めいただきました。

また、「介護が必要になったときの資金をどう準備するのか。なつてからではなく、お元気なうちからライフプランとして考えておく必要があります」とも、介護に関する情報が氾濫する現在では、正しい知識をお持ちでない方の場合、限られた時間の中、お金と場所だけで飛びつき誤った選択してしまう現実を、いくつもご覧になられたからこそのご提案でした。

その他にも、高齢社会の実態、在宅で介護を選んだ場合の介護保険の活用方法、老人ホームの種類や選択時のポイントなど、介護でお悩みの方にとって有意義な情報をご紹介いただきました。

(2011年7月18日講演より) 一部抜粋

終了後、講演を聴かれた皆様からは、安藤さんの家族に対する思いに共感でき、将来の選択肢についても深く考えさせられたと多数のお声をいただきました。川上さんの講演でも、介護の相談先や施設の選び方、大切なお金の話など、とても参考になったと好評をいただきました。

次回は、ご参加いただいた皆様のご要望にお応えし、高齢者の住み替えや有料老人ホームをテーマにしたセミナーをご用意させていただきます。